

日々の

暮らしに

香川芳子 女子栄養大学学長

え／目黒雅也



道端の花

水^ぬ温むころ、日当たりのよい土手や空き地で鮮やかな黄色のたんぽぽを見つけると、「あつ、春が来た！」と歓声を上げるほどうれしいものです。花が終われば綿毛を広げて空に飛び立っていきますが、ふわふわの綿毛の根元一つ一つに種があります。よくフーツと息を吹きかけて綿毛の舞う姿をながめて遊びました。子ども心に植物はこのようにして子孫を増やしていくのだと感心したものです。

花を咲かせます。毎年そのくり返しです。自宅から裏道を通って美容院に行く道筋の家々の庭にも発見があります。芳しい沈^{しん}丁^{ちやう}花^けや梅^{うめ}木^も蓮^{れん}、連^{れん}翹^{ぎやう}など、確実に春はやってきます。球根も植えられていて、クロッカスやチューリップの花を楽しませてくれます。

日々の暮らしの中で、花から季節の移り変わりを教えてもらいます。われわれ人間が気づかぬところで、つねに子孫繁栄の準備をし、芽を出して葉を伸ばし、つぼみをつけて花を咲かせ、実をつけ、落葉し、また翌年の準備をする——植物の営みは変化に満ちています。